

2018年5月6日受信

事務局のみなさん、後藤・村上先生、

報告はしばらく休みですが、現地の仕事はおおよそ、願う方向で展開していると思います。

今後の普及計画は、訓練計画の発足で大きな転機が来たようです。受講グループは、我々PMSの職員に始まり、→作業地の水主・村落指導者→ナンガラハル州内の他の地域の水主・村落指導者へと広がり、6月からは東部の他州(クナール、ラグマン、ヌーリスタン)から地域指導者がやって来ます。今のところ、PMS方式の紹介が主ですが、その後は政府関係の技術者を対象に、やや高度なレベルとなります。現場実見を重視したプログラムが好評で、これまで言葉を尽くしてなかなか伝わらなかったことが理解を得られ、広範な人々が支持を表明するに至っています。カブール側でも大統領自らが

旗振り役となって、良い協力態勢が築かれつつあると感じています。希望は持てます。

しかし、評判が良いことが達成したということではありません。やはり事業の基礎は地道な現場にあります。マルワリードIIの今後の展開、カマ堰改修(第2期・カマ第一堰)、次期計画地の策定などは確実に行わないと、足をすくわれます。このことについては、いろんな流動的事情がかかわって、現地日本の双方が事情をよく理解しておくことが前提となりますので、よろしくご協力をお願いします。

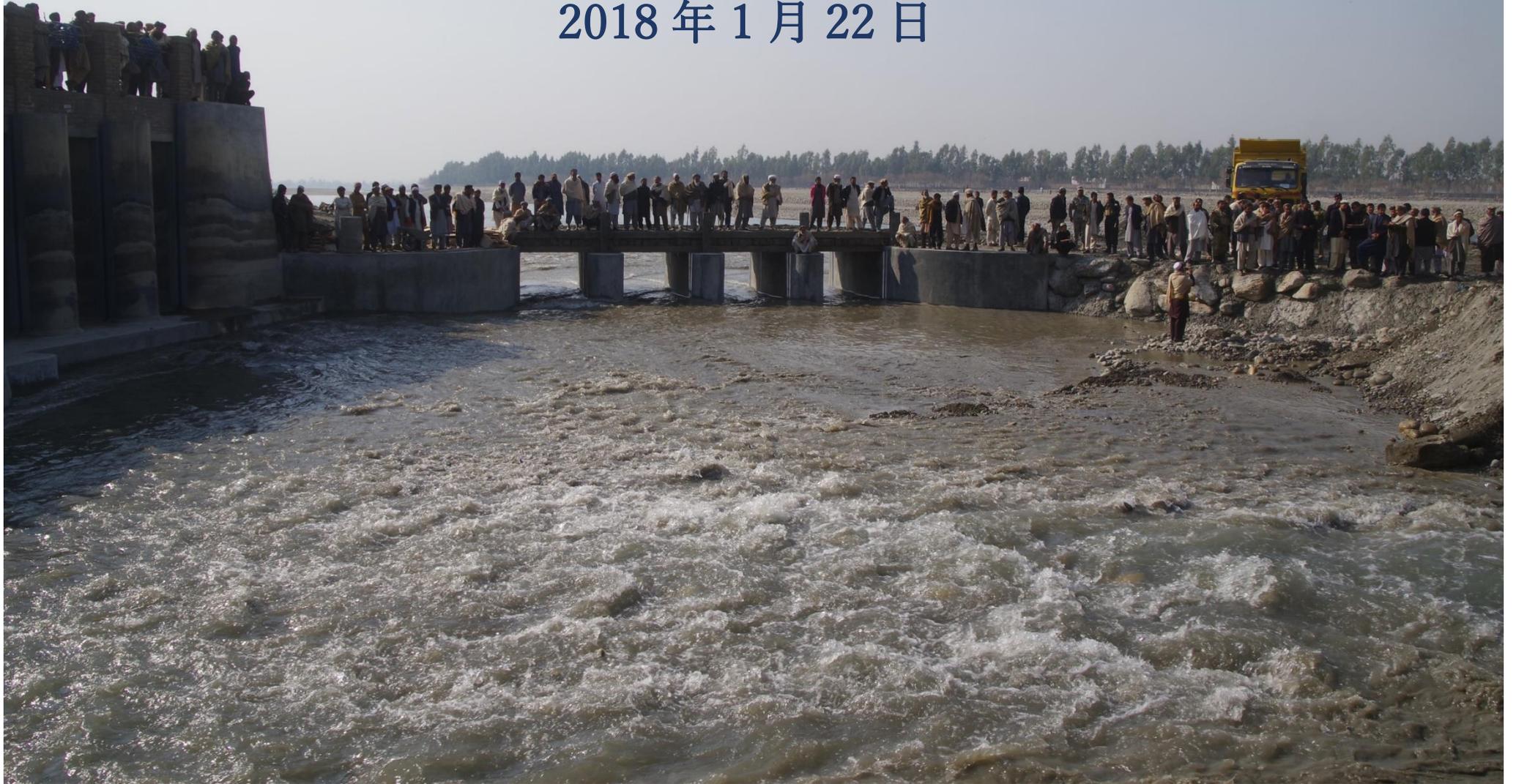
目もくらむような最近の動きでした。今冬と今春のハイライトを再度伝えておきます。

みなさん、お元気で。

2018年5月6日 記

カマ第二堰、遮水壁を開放して送水

2018年1月22日



カマ堰Ⅱ試験開放

ダラエヌール

去る2月12日からカマ堰Ⅱの試験開放が開始された。折も折、2カ月ぶりの降雨があり、突然襲う寒風について工事が行われた。山々の頂きも久しぶりに雪化粧が見られた。12月14日現在、予想通りの流れを確認し、現場の一同、この4カ月間の緊張と労苦を思い、大きな安堵と喜びに包まれた。異常低水位はむしろ工事をやりやすくして、建設の遅れを完全に取り戻した。残余工事をこのまま進め、2週間以内に全作業を終える。2018年2月14日

カマ堰再建・第一期完工

2018年2月21日、カマ堰改修は第一期工事を終了、9月に始まる第二期工事に備える。第二期は主に第一堰の砂吐設置と、分割河道Ⅱの整備、対岸ベスード側の護岸を行う予定。今回の改修は異常低水位と無政府状態、二重の不安の中で行われたが、これによって、カマ郡50数か村全体に安心感を与え、住民との絆が不動のものとなった。初期に工期の遅れが発生、PMSは強硬路線をとり、安易に現場にかかわる技師らを免職、全力を工事完遂に傾けて遅れを回復、綱紀粛正に資すところも大きかった。

改修は建設後7年間の観察で得た知見を整理し、とくに洪水時の上下流の状態を考慮し、結果的に「山田堰モデル」に形状・機能が類似したものとなっている。折から近傍のミラーンで訓練計画が始まり、「生きた模型」という、格好の教材として利用されることが期待される。

(写真；カマ第二堰を上流から見る。2018年2月21日撮影)

マルワリードⅡ、3.3 kmまで送水開始

2017年12月20日



マルワリードⅡ堰流域、広がる田畑

2018年1月24日 コーティ村

マルワリードⅡ流域では今、相当な速さで緑が広がっている。洪水と渇水で荒れた川沿いの荒地で耕作が始まったからだ。これに伴って流域各村の帰農が進んでいる。しかし一方、アフガン東部全域では2年続きの異常少雨で、記録的な河川水減少が観察され、川沿いの取水も困難に陥っている。クナール河上流の森の国・ヌーリストンでも、凶作が伝えられている。作業地は何とか切り抜けつつあるが、全体では2000年に次ぐ早魃と不作が予想される。

乾燥した土地の上空は煙のように砂塵が覆い、遠景を見せない。昨年4月から現在まで、まともな降雨日は僅かに5日、異常事態の中、必死の作業が続けられている。(写真は用水路約4.5km地点)



マルワリード II 主幹 4.9 km に試験送水



2018年2月22日、マルワリードIIの主幹水路全線、4.9kmが開通した。第一期工事ではなく、2019年までに開通する予定だったが、パキスタンからの大量難民帰還、無政府状態が進む中、緊急対策で早期灌漑を決定、昨年7月から突貫工事態勢で進めてきた。その結果、予定を1年早め、流域4か村に限なく灌漑が行き渡ろうとしている。難民対策とは、ともかく農業が営める状態にして、帰農を促すことだった。

PMS 訓練所譲渡式

地域の全勢力集結

ラーン訓練所の合法的な足固めは、この二年間の最大の懸案の一つであった。その正式発足は、「取水設備普及計画」に際して、今後の行政側の理解、地域指導者の協力を得るうえで不可欠のものであった。州知事以下の全地方政府閣僚、カブールから農業省代表、FAO カブール事務所の一団、地域から PMS 代表、シェイワ・カマ・ベスード郡長と各郡の自治会代表（農民指導者）が一堂に会した。契約式は和やかな雰囲気の中で行われた。

各方面が PMS 支持を表明、今後明るい見通しを開いた。



ガンベリ、新緑とバラ満開

開拓の最終段階へ

今ガンベリは、酷暑の到来を前に短い春を謳歌している。
記念公園ではバラが咲き乱れ、新緑が目にも痛い。

ガンベリ開拓は、先の主幹排水路の完成に続き、給水・排水路網整備の最後の詰めに入っている。早ければ4月中旬に測量を完了して着工する。現在ガンベリ下流の住民とルートを調整中。これによって、長い長い懸案が解決され、ガンベリ全域約 800 ヘクタールの完全灌漑を目指し、住民同士の抗争に終止符を打つ。PMS は一年をかけ、後顧の憂いを完全に一掃する。嵐前の静けさだ。

ガニ大統領からの叙勲はうれしいハプニングで、PMS 職員一同が大いに勇気づけられた。大統領自ら PMS 方式の熱心な支持者となり、その後の行政の協力に大きな影響を与えた。政治的な打算はない。閣僚たちも暗いニュースばかりで辟易していたのだ。2018 年 2 月 7 日



心に残る水辺の柳

ヤナギはPMSのおこなった植樹、94万本のうち57万本、約60%を占める。用水路沿いはもちろん、作業地の至る所に植えられ、クナール河沿いの風物として溶け込んでいる。初めのうちはかなり苦戦していたが、次第に独自の方法を確立して現在に至る。活着率は100%に近づき、どこの村に行っても熟練者がいて、上手にできるようになった。いくつか心に残る風景をお伝えします。

ご苦労さまでした。小生はしばらく休みます。

皆さん、お元気で。

2018年5月6日 記

スピંગガル山脈を背景にするカマ第二堰。州内では最も落ち着いた場所で、家族連れの憩いの場所になっている。川辺の柳は挿し木後7年目。

2018年4月21日



スピニングガル山脈

取水門

遮蔽物のない炎天下の作業は過酷な労働だ。特に断食月は犠牲者が出る。送水を優先して「水の中の作業」とし、活気づく作業員。ベラ延長路。

2018年5月5日



砂州保護の目的で叢生させて密植した「剣山・粗朶柵」。造成後3年目。ひと固まりが大木並みの働きをする。砂州は今のところ安定。ミラーン堰。

2018年5月5日



ミラーン護岸沿いに緑陰を添えるヤナギの並木。殺風景だった岸边に安定感をもたらす。2018年5月4日



上流

新しく開通したタラン分水路沿いに行く牧童たち。牧童は子供の仕事だが、このところ往来が頻繁になり、家畜が増えたことを印象づける。



ミラーン主幹水路沿いのヤナギ並木。挿し木後2年半。2018年5月6日



ミラーン訓練所

まるで水稲の苗のように準備されたヤナギの束。長さ、太さ、輸送・保存の仕方など、案外いろいろと課題が残っていたが、このところ殆どトラブルを聞かない。みなが確立した方法を習熟して、当然のように行うようになったからだ。また、季節を問わず挿し木できるようになったことも大きい。マルワリードⅡ、調節池Ⅲ。

